

「新医療センター」について日本共産党奥州市議団の見解

各市立医療施設を残しつつ、総合水沢病院の早急な建て替えが必要です

この間、16年以上にわたり、耐震性や老朽化が指摘されている総合水沢病院について、耐震補強や建て替えの議論が行われてきました。現在、耐震補強だけでは問題が解決しないため、市有地である水沢公園陸上競技場に建設する計画で進んでいます。

総合水沢病院の建物の老朽化が深刻です

病院の耐用年数は税法上39年とされています。総合水沢病院は、昭和48年建設で法定耐用年数をはるかに超えています。雨漏りの修繕がうまくいかず地下の機械室まで及び、シートで雨水を集水してしのいでいます。水道・下水道管の更新がされておらず、下水道管の詰まりなどの問題が深刻になっています。また、構造上、一階の床をはがさないで建設当初からの大型の暖房用ボイラーや冷房用冷却機を交換できない状況です。致命的故障があれば暖房・冷房がきかなくなり、耐震性にも問題があります。患者や医療関係者の安全を守るために耐震補強を求める声がありますが、調査・設計・工事まで多くの時間と費用(平成25年試算で、約43億円)がかかり、かつ、耐震補強後の使用年限が限定されます。

「新医療センター」は必要とされています

総合水沢病院は、奥州金ヶ崎地域で唯一「感染症病床」をそなえています。新型コロナウイルス感染症パンデミックでは、発熱外来等を設置したものの、たくさんの方が診察を受けられない状況に追い込まれました。その受け皿として市立医療施設が大きな役割を発揮したように、いつ起こるかわからない新興感染症への備えが必要です。総合水沢病院は、救急車による搬送を年間約1000件受け入れています。市内の救急搬送の半数以上を県立胆沢病院で、次いで総合水沢病院が担っています。高度医療を担っている胆沢病院に、総合水沢病院の分を担うことはできないと考えます。中等症以下の救急に備える体制が必要です。

前沢・胆沢・衣川の医療施設を「残してほしい」の声に

応えるべきと考えます

令和3年(2021年)の請願署名には、地域住民の圧倒的多数の署名が添えられていること、合併市の市長の公約でもあり周辺地域の皆さんの願いに込めていくことが必要だと考えます。

前小沢市長により市立病院・医療機関の統合再編計画(改革プ



令和3年6月18日
小沢昌記市長(当時)に申し入れる石川岩夫まごころ病院を守る会会長

ラン)が示されたことを受けて令和3年(2021年)9月議会に3件の請願が提出されました。「まごころ病院の存続を求める請願」(賛同署名1万1573筆添付)、「前沢診療所の存続を求める請願」(賛同署名1万116筆添付)、「衣川診療所の病床存続を求める請願」(賛同署名3031筆)がそれぞれ地域から提出されました。

日本共産党奥州市議団



事務局次長 佐藤美雪議員
事務局長 瀬川貞清議員
幹事長 千葉敦議員
議員副団長 菅原明議員
議員団長 今野裕文議員

市政報告

2025年11・12月号
奥州市議会日本共産党議員団
《連絡先》
奥州市役所日本共産党議員団控室
水沢大手町1-1 ☎24-2111
日本共産党奥州市委員会
水沢大手町三丁目59 ☎24-2021 fax24-2049

日本共産党奥州市議団の政策と活動を紹介します。

今後、人口減少が進む中でも高齢者の割合は微増から横ばいに推移していくとされています。また、市内でお産ができず、将来は妊婦健診すら受けられない状況も想定されます。小児医療においても十分な医療体制とは言えません。

医療機関別搬送人員	
令和6年、単位：人	
胆沢病院	3,244
水沢病院	974
江刺病院	516
奥州病院	258
まごころ病院	192
石川病院	38
その他	667
合計	5,889



その後行われた市長選挙で、前市長は市立病院・医療機関の統合再編計画(改革プラン)を撤回し、現市長とともに、市長候補として、各地域の市立病院・診療所を存続させることを訴えました。

裏面へ
続きます！



現在、「市民アンケート」のご協力を、お願いしております。
上記コードからWebで回答できます。
こちらからアクセスしてください。

【令和7年版】
『奥州金ヶ崎消防本部消防年報』より抜粋